

## 会議要旨

### 【開催概要】

|                    |                                                                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 会 議 名 称            | 第4回 丹波市立農の学校検証委員会                                                             |
| 開 催 日 時            | 令和8年7月31日（金）18:30～                                                            |
| 開 催 場 所            | 丹波市役所春日庁舎 4階 大会議室                                                             |
| 出 席 委 員<br>（名簿順表記） | 中塚 雅也委員、婦木 克則委員、岩元 清志委員、酒井 宏之委員、<br>柳澤 吉彦委員、武田 佐保子委員、中出 靖大委員 （計7名）            |
| 欠 席 委 員            | 須原 隆一委員、宮垣 美絵子委員 （計2名）                                                        |
| 事 務 局              | 4名                                                                            |
| 会 議 次 第            | 1. 開会<br>2. 挨拶<br>3. 議事<br>（1）今後の方向性・スキームの決定及び検証結果報告書案の検討<br>（2）その他<br>4. 閉会  |
| 会 議 資 料            | ・資料1 丹波市立農の学校検証委員会 委員名簿<br>・資料2 「丹波市立農の学校検証委員会」検証結果報告書（案）<br>・資料3 今後の方向性・スキーム |

## 【議事要旨】

|     |                                                                                                                                                                       |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | <p>1. 開会</p> <p>第4回丹波市立農の学校検証委員会を始める。</p>                                                                                                                             |
| 委員長 | <p>2. 挨拶</p> <p>お疲れのところ恐縮ですが、もう一息ご協力をお願いしたい。</p> <p>3. 議事</p> <p>これより議事に移る。</p> <p>(1) 今後の方向性・スキームの決定及び検証報告書案の検討について</p>                                              |
| 事務局 | <p>資料2「丹波市立農の学校検証委員会」検証結果報告書(案)及び資料3「今後の方向性・スキーム」を用いて、事務局から説明。</p>                                                                                                    |
| 委員長 | <p>ただいまの説明について質問はあるか。</p>                                                                                                                                             |
| 委員  | <p>当初から申し上げているが、議事録の提示をお願いしたい。</p>                                                                                                                                    |
| 委員  | <p>就農後の経営安定化に向けて、農業経営に関する学びの深化について、前回までに意見が出ていたのではないか。その内容は反映されているか。</p>                                                                                              |
| 委員長 | <p>教育内容(座学で学ぶ内容)の「経営計画作成を模擬的に学ぶ」に含めているということだと思う。また、在学中から就農支援センターと連携し経営計画を固めていくということもある。</p>                                                                           |
| 事務局 | <p>委員長のご意見のとおり、教育内容(座学で学ぶ内容)の「経営計画作成を模擬的に学ぶ」というところ、教育内容(就農・定着に向けた支援)で「就農支援センターと連携」というところで整理をしている。あわせて、教育内容(座学で学ぶ)の2つ目「自らの経営全体を俯瞰しながら将来像を考える」というところでもカバーしたいと考えている。</p> |
| 委員  | <p>前回の検証委員会では、圃場は全て有機 JAS 認証を取得しているため、慣行栽培を圃場で行うのは難しいという意見があったと思うがどうか。</p>                                                                                            |
| 事務局 | <p>現時点では、既存圃場の一部について有機 JAS 認証を外すことを想定している。</p>                                                                                                                        |
| 委員  | <p>近隣で慣行栽培用として利用できる圃場を確保する方法も考えられるのではないか。</p>                                                                                                                         |
| 事務局 | <p>それも検討をしたが、農の学校の圃場についても指定管理者に管理してもらうことになる。圃場面積を増やすと管理が大変である。定員を20名から減らす方向性になっていることもあり、できるだけ面積を増やさず運用していくことで整理している。</p>                                              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長  | 現実的な対応かと思う。省力的な栽培を考えていくことになるのだと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 副委員長 | 農の学校の圃場については、慣行栽培と有機栽培の区分をしっかりと<br>思う。農の学校修了生が有機栽培を行い、隣の農地では慣行栽培をしている状<br>況でトラブルがあったと聞いている。境界の管理方法などを含めてしっかりと<br>学んでもらいたい。農業委員会の立場から言えば、農の学校の農地は市長が借<br>りているものである。管理が不十分となると問題になるので、十分注意してほ<br>しい。                                                                                                            |
| 事務局  | 今年度は、丹波市が実施する講義や農業委員会委員との交流を通じ、慣行栽培<br>が主流な地域における用水管理や地域との繋がりについて、市や委員から受講<br>生へ伝えた。今後も在学中にこうした内容を学んでもらえるような取組ができ<br>ればよいと考えている。                                                                                                                                                                              |
| 委員   | 経営計画作成等の学習については、今までが不足していたという認識か。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 事務局  | 現状はそうである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 委員   | 就農準備資金は近年ハードルが高くなっており、申請しても通りにくい状況が<br>農の学校の受講生にある。経営計画については、実現性が高いと審査側に伝わ<br>る説得力を持たせなければならない難しさがある。慣行栽培をカリキュラムの<br>一部に取り入れるということであれば、野菜は有機栽培、水稻は慣行栽培とい<br>う経営方針にすることで、説得力のある経営計画になると思う。まずは1年目・<br>2年目の経営をどう成り立たせるか、慣行栽培を取り入れることも選択肢に入<br>れて指導・支援ができればよいと思う。模擬的な経営計画作成に加え、さらに<br>一歩進んで模擬面談にも協力できるのではないかと考える。 |
| 事務局  | 一昨年は普及センターに協力いただき、模擬面談を実施した。昨年は就農準備<br>資金への申込みがなかった。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 委員   | 就農準備資金は交付終了から1年以内に就農という条件があり、農地がある程<br>度決まっている人でないと通らないという現実がある。他の委員のおっしゃる<br>とおり、現実的な計画を立てる必要があるため、研修中に、売上や経費などの<br>数字を掴む必要がある。そういう意味では、個人圃場を持ち、販売までする<br>ということは非常によいと思う。1年では難しいかもしれないがどのような品目<br>を組み合わせるのかなども考えられるようになればよい。                                                                                 |
| 副委員長 | 1年の研修期間で経営的な感覚を十分に掴むことは現実的に難しい面がある。<br>今回、農の学校の方向性を見直す中で大きいのは、就農後支援を充実させる方<br>向に整理している点である。地域としては、協力農家等を組織化し、修了後に<br>一定期間研修を受けられるような受け皿を用意する必要があるのではないか。<br>修了後の移行期を支える、いわば「ゆりかご」のような仕組みが必要だと思<br>う。最終的に自立経営となるか雇用就農となるかは個々の状況によるが、地域<br>の担い手として定着してもらうことを目的とするなら、そのような支援体制も<br>今後検討していく必要があると考える。            |

|     |                                                                                                                                                                                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長 | 兵庫県が就農定着応援プランを作っているが、なかなかプラン数が増えないと聞いた。丹波市では農の学校や、農業法人などが入っている。こういった兵庫県の施策と連携しながら、受け皿を作ったり、若手農家でグループを作ったりして定着を応援するというようなことをしてもよいと思う。兵庫県は支援メニューを各段階に応じて用意されているので、それとうまく連携をして農の学校も位置付けるという話もあったため、そこについては進めていってほしい。        |
| 委員  | 慣行栽培を学習に取り入れていくのであれば、就農後支援として、JAの生産部会につなぐことも有効ではないか。生産部会に入ること、特定品目の栽培方法、市場規格に関する知識を学べる。そういった既存組織を活用しながら就農後支援を行えばいいのではないか。また、地域計画を各地域で策定しているが、有機栽培の新規就農を受け入れる地域が手を挙げてくれているので、それをリスト化し、農の学校の受講生に選ばせてあげることも今後の支援になると考える。    |
| 委員長 | 本委員会にも出席していただいているのに JA が資料に文言として出てきていない。JA との連携についても進めていただきたい。                                                                                                                                                           |
| 委員  | 初心者向けの栽培講習会を年3回開催している（3月・5月・8月）。次回は、8月11日に開催する。演目は、丹波大納言小豆と丹波黒大豆があり、8月のみ山の芋も取り扱う。終了後の個別相談会で、丹波市で農地を買いたいといった意欲的な方もあり良い接点になっている。                                                                                           |
| 委員  | 前回、共選出荷の仕組み整備については難しいという話が出た。そのとおりで、皆で同じときに同じものを作っても違いが出てくることが栽培の学びになる。共選や共販をすることで地域の取り組みに馴染むきっかけになり得ると思うので、就農後支援として誘導していければよい。有機栽培においては規格に合わせることは難しい部分があり、慣行栽培で安定的に作る品物を1つ、2つ取り入れるとよいと思うので、修了生が柔軟に営農計画を考えられるよう支援が必要である。 |
| 委員  | 1人で農業を始めても難しいので、生産部会で先輩と知り合って勉強することも大事だと思う。また、ほかの地域では、就農した地域で何でも聞ける親方を見つけるという取組をよくされている。農業の相談ができるだけでなく、地域に合わないことをしていると指導をもらえるので地域に馴染みやすい。就農後のインターンシップで親方に対して1日5,000円のお金が出るという兵庫県の事業もあるので、親方ばかりに迷惑が掛かるということもないと考える。       |
| 事務局 | 新規就農者を育成する中で、親方農家とマッチングするという話はよく出るが、親方農家が少なくてもなかなかマッチングができない。丹波市は、新規就農者が増えている分、親方の数が足りない。農の雇用事業が使えない場                                                                                                                    |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 合、市独自で月5万円補助する制度も設けているが活用が進まない状況である。親方になってもらえる人の発掘が行政としての課題である。                                                                                                                                                                                             |
| 委員  | 個人的にはそうは思わない。実際に新規就農者に第三者継承のあっせんを直接してきたこともあるが、後継者がいないという声を各営農経済センターから聞く。情報を把握する仕組みをもう少し整理する必要があるのではないか。後継者を探している人も多いと考える。                                                                                                                                   |
| 委員長 | 誰かやってくれませんかでは手が挙がらない。現場に入って手を挙げてくれる人を探すという仕組みを作っていく必要があるが、そもそも誰が担当するのかということも含めて整理をする必要がある。                                                                                                                                                                  |
| 委員  | 教えるというと身構えられるので、一緒にやってくれる人という言い方をした方がいい。研修生のこういう農業をしたいという思いのある人に寄り添うことは難しい。                                                                                                                                                                                 |
| 事務局 | 農の学校の場合はそういうケースが多いと思う。弟子入りする人は自分で理想の人を探して、それが他の市町であれば他に行く。農の学校の修了生が自分の理想の農業をする人を市内で見つけようとした場合、かなり選択肢が限られる。                                                                                                                                                  |
| 委員  | 修了生が地域で定着できるよう、修了直後の接続部分は丁寧に対応していく必要があると思う。農の学校の募集段階で、地域とつながりながら就農・定着を目指せることを示せば、他の研修機関等との差別化につながると思う。類似施設と受講生を取り合うような状況もあるため、地域との接続を特色として打ち出すことが重要ではないか。                                                                                                   |
| 委員  | 雇用就農の場合、丹波市は受け入れ側が少ない。私自身は、雇用就農資金を使ってこれまで3人受け入れているが、受け入れ側の体制が十分に整っているとは言えない。実際、補助金を利用して男女別のトイレや休憩所を整備したり、有給休暇や週1回の休日を設けたりといった改善を行ってきた。しかし、農業は天候に大きく左右されるため、一般的な企業と同じように休暇を取得してもらうことが難しいという課題もある。そのため、学校側としても就農希望者に対して、実際の農家における働き方の実態について事前にしっかりと伝えておいてほしい。 |
| 委員  | 農業の労働環境の問題は、厚生労働省のガイドラインにも出てきており協議の場もある。農業は規制緩和の対象業態になっており、現状、就業規則を作るなどもすぐには難しい。                                                                                                                                                                            |
| 委員長 | かなり具体的な部分までご意見をいただいている。今後、具体的な内容については委員の意見を踏まえつつ検討してもらいたい。他に意見等ないか。                                                                                                                                                                                         |
| 事務局 | 今後の方向性・スキームについて、追加すべき項目があるか確認をしたい。                                                                                                                                                                                                                          |
| 委員  | より具体的な進め方については今後考えていくべきこと。追加項目はないので                                                                                                                                                                                                                         |

|     |                                                                                                                                |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | はないか。                                                                                                                          |
| 委員長 | おおむね問題はないと思うが、連携先として JA を追加したほうがよいと考える。                                                                                        |
| 委員  | 丹波就農支援センターのプロジェクトチームにメンバーとして入っており、実際、就農相談や経営相談に参加して、必要に応じて現場へ繋ぐこともしている。                                                        |
| 委員長 | 「就農支援センター・JA 等と連携し」とあってもよいのではないか。具体的な内容については、丹波市と JA に任せる。                                                                     |
|     | 報告書中の図表には通し番号を入れたほうがよいと思う。また、各図表に「(第 3 回検証委員会より)」といった文言が入っているが 필요한のか。                                                          |
| 事務局 | 根拠を載せたほうがよいと考えている。                                                                                                             |
| 委員長 | 一般的には使わない。図表のタイトルをつけて、記載が必要な場合は注釈として書くのがよいのではないか。                                                                              |
| 委員  | 機械関係のことがあまり書かれていない。スマート農業についても触れておいてもよいのではないか。有機農業は手作業というイメージがあるが、時代はスマート農業で、ドローンの活用などもあるので、そういう機械についても触れるということを記載してもよいのではないか。 |
| 事務局 | ドローンを飛ばしていたこともあったが、有機でドローンを活用する場面が少ない。リモートセンシングなどパソコンを使ったデータ分析は、現在も授業で取り扱っている。                                                 |
| 委員長 | 教育内容(座学で学ぶ)に「地域で活躍する農業者の経営手法や考え方に触れ」とあるので、スマート農業や機械化について可能であれば触れてもよいのではないか。                                                    |
| 委員  | 水稻の栽培管理方法の学習を目的とした小規模圃場での実習と合わせて、AI と衛星画像を活用した栽培管理支援システムについて学習してはどうか。                                                          |
| 事務局 | 水稻栽培はかなり小さい圃場を想定しているが、それでもできるのか。                                                                                               |
| 委員  | 衛星から観測でき、区切れる大きさがあれば、1 アールでもできる。                                                                                               |
| 事務局 | 「丹波市立農の学校検証委員会」検証結果報告書の送付文(案)について、資料を配布し、事務局から説明。<br>今、配付した資料は、検証委員会の報告書の鑑文という位置づけを想定している。                                     |
| 委員長 | 第 5 回委員会については、開催しない方向で差し支えないか。最終報告書を委員の皆さんに配布し、意見の有無を確認したうえで、最後は委員長一任として責任を持って対応する。                                            |
| 委員  | 異議なし                                                                                                                           |
| 事務局 | 事務局としては、委員の皆様のご合意があれば 5 回目の検証委員会はなくても問題ない。送付文についてはいかがか。                                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員   | 送付文（案）の「4 今後の方向性及びスキームに関する事」のうち、「(3) 主な見直し内容」の③については、報告書の中でもう少し具体化してもよいのではないか。県・普及センター・JA・市・農の学校等の関係者が別途協議することになると思うが、この部分は④の入学確保にもつながるため、報告書段階でどこまで明確にするか検討が必要ではないか。                                    |
| 事務局  | 報告書では方向性の整理を想定している。具体的な内容については、検証委員会ではなく、今後検討していく。                                                                                                                                                       |
| 委員   | JA が今後の方向性・スキームのどこに入ってくるかは、別途協議させてほしい。                                                                                                                                                                   |
| 委員長  | 今日の議事は終了とする。                                                                                                                                                                                             |
| 副委員長 | <p>4. 閉会</p> <p>初めの課題のピックアップ、方向性の決定、最終のまとめまで、それぞれの立場でご意見をいただき、よい報告書になったと思う。事務局の熱意もあったと思う。今後もこの報告書を活用し、農の学校がさらに充実し、修了生が地元で活躍してくれることを最終目標として見守っていきたい。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |